グループホームすみか
（別紙の２）

自己評価及び外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職場の環境に合わせながら職員と情報を共有して対応している。	・事業所理念を常に目にとまる共有スペースに貼っている。 ・理念をトップダウンでなく、職員一人一人が解釈、目標を掲げた概念図を作成し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在コロナの影響にて交流の機会が減少している。	・コロナ禍と利用者の重度化により現在は、あまり行われていないが、以前は自然と地域の皆さんとの交流が行われていた。今後は、状況を見ながら交流の機会を増やしていく予定と聞き取る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	時々相談案件がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	職場の状況を把握しながら会議で相談し、職場の環境が向上するように努めている。	・昨年は、コロナ禍で対面による運営推進会議の実施ができなかったため、各委員へ報告を郵送したが、一方通行でなく委員からの意見を聞くため、3月に対面会議の実施を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	必要な事項、迷ってしまう案件を相談している。	・必要な相談等がある場合は、担当課に出向いたり、電話等で市と日頃より連絡や指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本身体拘束は行っていない。必要な場合は家族に了解を取っている。	・身体拘束は基本的に実施しないことを方針としているため、現在は実施していないが、昨年1件、4点柵による拘束を行った際は、家族への説明と同意、状況の把握、解除の検討等を記録し、実施した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	定期的な勉強会にて共有している。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強不足は否めない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者の方で、説明を行い理解、納得していただいている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族と連携を持ち、対応できている。	・電話やライン等の通信手段また、物品持参時等家族との連携をとっている。	・苦情や要望、意見等について気軽に申し出る事ができる体制をポスター等で利用者や家族、来訪者が周知できる様期待します。
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	課題があれば、経営会議にて議論できている。	・職員からの意見については、法人内で統一し、部門長を通して反映している。また、相談や意見が出しやすい環境整備をすすめている。 ・セクハラに関する対応も今後進めていくと聞き取る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	今後は、人事考課制度等にて仕事内容のメリハリを考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人外の研修参加を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナになってからは活発ではない。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	常にアンテナを張り、毎朝の申し送りにて共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	できるだけこちらから気にかけ、遠慮なく話してもらえる関係性の構築に配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	一番必要なことの順位を見極め、介護計画書に落とし込み対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎日の申し送りで、組み立てている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族に必要な支援を提案して、協力していただいている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナの中で、必要と判断すれば短時間の面会をお願いしている。	・現在、コロナ禍で面会を制限しているが、主治医が看取りの状態と判断した場合は例外としている。 ・できる限り生活の継続性が確保できるように火器以外の持ち込みを勧めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎朝の申し送りにて組み立てを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	努力している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話ができる方は聞き取り、難しい方は家族から聞き取りを行って対応している。	・重度化により、本人の意向の把握は難しい利用者が増加しているが、しぐさや表情を観察することによりサインを汲み取っている。また、家族からの聞き取りも行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族から情報を得るよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	家族から情報を得るよう努力している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人に合った生活様式が出来るよう職員間で共有して介護計画に反映させている。	・開所より独自の様式によるアセスメント、介護計画と実施、評価の過程が行われている。	・本人や家族の意向を明確化し、事業所の方針、計画立案→実施→評価の過程が共有できる様に標準様式の活用を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	必要な時、地域にも相談しての対応を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	今は地域対応において希薄になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個々の状況を踏まえ、対応している。	・入所時に意向を重視するなかで、家族にお願いして内科の主治医を変更してもらい、1回/月、また必要な方は、精神科2回/月の定期訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	連携を持ち対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーを常に更新して対応。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族と方針を確認しながら、重要な説明は医師から直接行ってもらっている。	・入所時に文書で家族より意向を確認し、その後も必要に応じて確認をしている。 ・現在重度化が進んでいるが、家族と連携をとり、職員間で方針の共有やチームケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な訓練はすべての職員ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	以前は避難訓練にも地域の方々も参加して頂いていたが直近はできていない。	・防災訓練は、年2回実施している。またそのうち夜間想定で招集訓練を実施しているが、コロナ禍と重度化により、地域を交えての訓練の実施はできなかったと聞き取る。	・防災計画と整合性をとったBCPの作成また、重度化に伴う避難方法や消防団等地域の皆さんの参画による訓練やシュミレーションの実施を期待します。

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	実践できている。	・具体的ケア場面では、排せつ時などプライバシーには特に配慮している。常日頃からおもてなしの心で接し、嫌な雰囲気にならない様に気をつけていると聞き取る。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	実践できている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	実践できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服を選んでもらったり、次に購入したい衣類を本人から聞くよう努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎朝、食べたい料理があるか聞き取ったり、今後食べたいものを聞き取っている。	・重度化が進み、6人が食事介助が必要となっているため、ミキサー食は既成の物を使用している。普通食は手作りで提供している。 ・食事介助者が多いため、夕食の配膳は、16時30分頃となっている。	・夏時間の設定をするなど、夕食の時間を遅くする工夫を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分は意識しているが、食事カロリーは厳密ではない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	現在オムツ対応の利用者が増加し、以前のようなオムツはずしにに取り組むことが困難になってきている。	・定時交換を基本として、本人の意向に沿える様に随時交換やトイレ誘導を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	看護師と協働してできるだけ自然排便になるよう努力している。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	週2回の予定であるが本人希望や不安が募っている時など臨機応変に対応している。	・重度化が進み、一般浴で対応できる時は2人で実施しているが、本人の体調も考慮するなかでシャワー浴対応をすることもある。	・一般浴槽の設備において、介助量が増えている利用者が多くなっている現状があります。利用者と介護者双方にとって安全で安楽な入浴方法の検討を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	実践できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が内容を介護員にレクチャーしてくれ、効能、効果を理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	趣味、特技、嗜好品などをできるだけ反映させられるようにしている。		
49	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	施設の外を散歩するぐらいに留まっており、以前のように外食をしたりするような外出はできていない。	・コロナ禍と重度化により、外出の機会が減ってきている。 ・理美容については、2ヵ月に1回、訪問理美容のサービスを実施している。 ・暖かくなったら、避難場所として協定している障がい者施設方面へ散歩に出かけたいと聞き取る。	

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在は個々の金銭管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は必要に応じて対応。手紙も対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホール内の雑音は特に気にして発生させないように配慮している。	・ホール内の雑音を、発生させない様に配慮していることや職員自らがアクティビティーを実践するため、テレビを置かない方針としている。 ・ホール内は、節分の壁面飾り等、季節を感じさせる工夫がされている。	・入所前の生活の継続性や利用者の選択性、情報取得の手段として等テレビの視聴について、利用者・職員等で十分話し合いを行い検討される事を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファーを活用して対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅より、火類以外は持ち込めるようにしている。	・居室内は、家具や位牌、遺影また家族の写真などを持ち込み、利用者が個別に過ごしやすい環境が整備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	実施している。		